

## 平成 22 年 度 事 業 計 画

(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

日本銀行函館支店が発表した平成 22 年 4 月の道南地方の金融経済動向によりますと「道南地方の景気は非常に厳しい状況が続いているが、持ち直しや下げ止まりの動きが広がっている。また、観光についても、非常に厳しい状況ながらも、持ち直しつつある」と報告されており、当地域の観光を取り巻く環境は、未だ厳しい状況にはありますが、今年に入り、函館空港の乗降客数や主要観光施設の利用客数が前年を上回るなど、回復傾向にあると推察されるところであります。

また、本年は、6 月の JRA 函館競馬場のリニューアルオープンに続き、7 月末には市民待望の箱館奉行所が 140 年の時を超えて復元オープンされるとともに、12 月には、東北新幹線の新青森が開業されるなど観光にとって明るい話題も多くあります。

さらに、4 月末には渡島、檜山管内 18 市町からなる「はこだて観光圏」が国の認定を受けるとともに、広域観光を推進する組織として「みなみ北海道観光推進協議会」が設立されるなど、南北海道の広域・滞在型観光の更なる推進に向け、新たなスタートを切ったところであります。

こうした背景をもとに当協会といたしましては、今年度を函館そして南北海道観光の飛躍に向けたリスタートの年として捉え、本年度の事業計画を策定いたしました。

まず、東北新幹線新青森開業に向けた取り組みでは、北関東・東北地区へのプロモーションを函館市及び関係団体との連携により進めてまいります。また、仙台地区のマスコミを活用したプロモーションやツアーを実施するとともに、青函広域観光の推進にも引き続き取り組んでまいります。

広域観光の推進事業としては、道央圏のマスコミやブロガーを活用した情報発信に取り組むほか、新たに携帯電話の位置情報機能を活用したツアーの試行や、シニア層をターゲットとして、癒しスポット発掘事業に着手するとともに「はこだて観光圏整備推進協議会」、「みなみ北海道観光推進協議会」との連携強化を図ってまいります。

また、新たな観光資源の PR として、JRA、函館市、函館商工会議所と連携し全国に向け函館競馬場のプロモーションを行うほか、箱館奉行所のオープンに合わせ、渡島・檜山管内の関係諸団体との連携により、オープニングイベントを開催するとともに、箱館奉行所にテーマを絞ったクイズ形式の第 2 弾「ハコペロキャンペーン」を実施いたします。

インバウンド対策としては、中国、韓国、台湾をターゲットとして旅行博覧会や商談会へ参加するとともに、特に、経済成長が著しい中国からの誘客を促進するため、上海万博日本パビリオンにおける「北海道の日」にも参加するなど、幅広いプロモーション活動を展開し、函館の知名度向上と誘客に努めて参ります。

コンベンションの誘致・受け入れにつきましては、函館市と連携してコンベンション主催者へのプロモーション活動を行うほか、主催者の事前視察を積極的に受け入れるなど、各種大会・会議の誘致に取り組むとともに支援・協力を強化してまいります。

観光客をあたたく受け入れるホスピタリティの拡充に向けては、ボランティア団体の協力を得ながら街歩きガイド「てくてくはこだて」を継続実施するほか、各種講演会等を開催するとともに、新たな事業として、函館市の未来を担う小学生を対象に、ホスピタリティ精神と「観光地・函館」の啓発向上を目的とした「子ども絵画展」を実施いたします。

観光客誘致の大きな要素である観光イベントにつきましては、当地で開催されるイベントへの参画や周知宣伝に努めるとともに、南北海道の各地で開催されるイベントに会員の皆様と共に参加し、相互交流を図りながら、さらなる情報発信に努めてまいります。

一方、当協会が運営しております旧イギリス領事館につきましては、昨年のリニューアル効果を維持するため、庭園コンサートや絵手紙講座を開催するとともに、本年 100 周年を迎える旧函館区公会堂、写真歴史館、文学館、北方民族資料館の 5 館を対象としたスタンプラリーを(財)函館市文化・スポーツ振興財団との共催事業として実施し、観光客はもとより、市民にも身近な施設となるよう PR 強化に努めてまいります。

また、観光客の利便向上のため、従来のガイドブックに変え、新たにフリーペーパーを作製し、函館・南北海道の観光情報の発信に努めるとともに、オリジナル商品やはこだてスペシャルチケットの販売促進に努めてまいります。

これら各種事業を推進し、当地域の観光振興をより一層推進していくためには、会員の拡大など当協会の基盤強化と関係行政機関、関係団体等との連携が不可欠でありますので、会員皆様の一層のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。